平成３０年度　事業報告書

社会福祉法人　ＮＨＫ厚生文化事業団

ＮＨＫ厚生文化事業団　平成３０年度事業報告

時代とともに変化し多様化する福祉へのニーズに応えるため、事業団は、「発達障害」や「“ひきこもり”からの回復」、若者の自殺を考える「『さみしい』『死にたい』と向き合う」などをテーマにフォーラムを開きました。認知症については、フォーラムのほかに、２９年度に新設した募集事業「認知症にやさしいまち大賞」を継続し、間近に迫る認知症７００万人時代への取り組みを支援しました。
また、「インクルーシブ防災」をテーマにワークショップを実施し、障害者や高齢者も取り残すことなく災害から守るためになすべきことを考えました。
２０２０年のパラリンピック東京大会に向けて、障害者スポーツへの理解を促進する事業に力を入れました。パラリンピック選手を小学校に派遣して子どもたちと交流するイベントを継続したほか、パラリンピック種目の競技会に事業団賞を贈呈し、選手育成を支援しました。
最新の福祉情報を必要な人に届けるため、ＮＨＫ福祉番組などを貸し出す「福祉ビデオライブラリー」を継続して実施。事業団が独自にＤＶＤ教材を制作する事業も継続し、共にたくさんの方が活用しました。
東日本大震災をはじめとする災害被災地を支援する取り組みも行いました。「わかば基金」では、「東日本大震災復興支援部門」を「災害復興支援部門」に改め、激甚災害指定を受けた現地の福祉活動を引き続き資金面から支援しました。
このように３０年度は、中期経営計画に沿って、ＮＨＫの放送と連携し多様な福祉事業を実施するとともに、社会的な課題である「働き方改革」、改正社会福祉法に基づくガバナンスの強化など業務改革も推し進めました。

○<u>最新の福祉課題に正面から取り組み、理解促進と支援を促す</u>

ＤＶＤ教材「優しい認知症ケア　ユマニチュード」の一部を盛り込み介護家族を支援するフォーラムを実施したほか、「発達障害」や若者の自殺の問題に向き合うフォーラムを行い、多様な福祉情報を提供しました。認知症については全国７か所でのフォーラムに加え、前年度スタートした「認知症にやさしい」全国各地の取り組みを選考して表彰する事業を行い、共生社会に向けての活動を後押ししました。

○<u>事業団ならではの募集事業や公開イベントを放送と連携して行い、多様なスタイルで福祉情報を発信していく</u>

「障害福祉賞」「銀の雫文芸賞」「めざせ！いきいき長寿」を継続して番組と連動して実施し、高齢者・障害者福祉に資する情報を発信しました。

○<u>パラリンピック関連イベントを番組連動で実施</u>

「パラリンピアンがやってきた！子どもたちとの交流教室」に加え、渋谷区主催のパラバドミントンと車いすラグビーの競技大会に事業団賞を贈呈し、障害者への理解促進と障害者スポーツへの支援に努めました。

○きめ細かい福祉情報の提供

「福祉ビデオライブラリー」では、「優しい認知症ケア　ユマニチュード」「“ひきこもり”からの回復」「発達障害」など、事業団制作教材の貸出数が増加しました。またホームページやフェイスブックでイベントの内容をわかりやすく掲載し、参加できなかった人たちへ情報を届けることにも努めました。

○全国の福祉現場や災害被災地を支援

「わかば基金」による全国の福祉施設や災害被災地への援助、「製品販売会」を通しての東日本大震災被災地の福祉施設への支援などを行いました。

○働き方改革を最重要課題として取り組むとともに、コンプライアンスを徹底し、リスクマネジメントを強化して、ガバナンス体制を確立

毎月定期的に「働き方総点検」を行うとともに、新たな休暇制度の導入を決定するなど体制と制度の整備を一層進めました。改正社会福祉法の趣旨をふまえて業務を進めるとともに、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティなど重点リスクについて、外部の専門団体との間で顧問契約を結ぶなど関係を強化し、適正な業務遂行に努めました。

目　　次

１．障害者福祉事業 …… ２

２．高齢者福祉事業 …… ８

３．東日本大震災などの被災地を支援する事業 …… １１

４．福祉情報の提供事業 …… １２

５．チャリティー事業 …… １５

６．その他の支援事業 …… １６

７．広報活動 …… ２０

８．働き方改革とガバナンスの強化等 …… ２１

９．後援・協賛した事業 …… ２２

１０．寄付金 …… ２３

１１．賛助会員・維持会員等…… ２４

１２．役員 …… ２６

〈 資 料 〉 ・事業概要一覧

１．障 害 者 福 祉 事 業

（１）こどもの発達相談会および療育キャンプ

〇こどもの発達相談会

大阪、名古屋、福岡において、ことばや発達の遅れた子どもとその親の相談会を１４回実施した。知的や言語の発達の遅れ、自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）や学習障害（ＬＤ）、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）などの子どもの相談が多かった。

大　阪	６回	相談件数	１１５件
名古屋	４回	相談件数	９０件
福　岡	４回	相談件数	７１件

〇親と子の療育キャンプ

発達に遅れのある子どもたちが、例年夏休みに愛知県豊田市の自然の中で集団生活を体験する「やまびこキャンプ」を予定通り実施。

８月１０日～１２日　愛知県豊田市　　参加者 ８６人

（２）肢体不自由児・者の療育活動

肢体不自由児・者の療育キャンプを、支援団体との共催・協力により、各地で実施した。夏季、冬季の野外活動を通じて、参加者の自立と社会参加を促進し、あわせて交流の輪を広げた。

			参加者
〇第５０回 フレンドシップ・キャンプ			
	９月　１日～　２日	徳島県鳴門市、徳島市	４４人
〇第５０回 高木記念山中キャンプ			
	８月１２日～１６日	山梨県山中湖村	９８人
〇第３０回 雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ			
（平成３１年）１月	４日～６日	新潟県南魚沼市	９０人

合　計：２３２人

（３）ＮＨＫハートフォーラム（発達障害）

自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）や学習障害（ＬＤ）、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）などについて、地元の「親の会」や「支援団体」、ＮＨＫ地域放送局などと共催し、ＮＨＫハートフォーラムを７回開催した。

３０年度は、「思春期の発達障害」「大人の自閉スペクトラム症」「女性の発達障害」や「ＩＣＴを活用した支援」などをテーマに取り上げた。

参加者

７月２２日　奈良県生駒市　「自閉スペクトラム症の人たちが
暮らしやすい社会をめざして」　４１２人
９月１７日　大阪市「思春期発達障害の基礎理解と教育的支援」　３３３人
１０月　８日　新潟市　「大人の自閉スペクトラム症」　１４８人
１１月１１日　鹿児島市　「発達障害児・者の社会参加に必要な継続的支援」　２４４人
１２月１６日　佐賀市　「自閉症スペクトラムの方々の就労を考える」　２２４人
（平成３１年）
２月１１日　名古屋市　「発達障害」　２６８人
２月１７日　大阪市　「女性の発達障害」　３１６人

合　計：１，９４５人

（４）ＮＨＫハートフォーラム（ひきこもり）

２０００年頃から社会問題化し、高年齢化などの新たな問題も生じている「ひきこもり」を、今年度は『女性』、『就労とライフプラン』などにスポットをあてて実施。当事者、専門家、支援者のクロストークから理解や支援のあり方を考えた。（事業団制作教材「“ひきこもり”からの回復」を使用）

参加者

９月　８日　大阪市　「ひきこもりからの回復」　３２５人

（５）ＮＨＫハートフォーラム（若者の自殺）

若者たちの『死にたい』＝自殺願望に向き合い、こうした人たちにどう向き合い支援したらいいのかを、その最前線で支援に携わる専門家や自助グループとのクロストークから考えた。

参加者

９月　１日　東京・中央区　「『さみしい』『死にたい』と向き合う
～いま求められる支援とは～」　２４６人

（６）フォーラム「がんと生きる～こころとからだ　私らしく～」

高齢化の進展によって２人に１人ががんを抱え、３人に１人ががんによって死を迎える。がん医療が進歩する中、完治を目指す治療の一方で、痛みをできるだけ減らしていく緩和ケアが始まっている。地域における公益的な取り組みとして、医療従事者や当事者の対話を通して、最新の医療情報と本人に寄り添う支援のありようについて考えた。

参加者

５月２７日　徳島市　３１９人
７月　１日　岐阜市　４５０人
１０月２１日　富山市　５２１人
（平成３１年）
１月１９日　東京・文京区　１，２１９人

合　計：２，５０９人

＊ＮＨＫの放送
６月２４日　総合　徳島県域（５/２７実施）
９月　９日　総合　岐阜県域（７/１実施）
１２月２７・２８日　総合　富山県域（１０/２１実施）

（７）ハートカフェ＠たによん

気軽に参加できる小規模講演会と、その講師が参加者と話し合う時間を多く設ける双方向性のあるフォーラムを、ＮＨＫ大阪放送局で３回実施した。

		参加者
６月１０日	「不登校～学校にいけない子どもに親や学校はどう向き合うか」	５３人
１０月２７日	「発達障害のグレーゾーン～臨床の現場からその概念を解き明かす」	４６人
（平成３１年） ３月２１日	「障がいのある娘とともに歩んで ～３・２１世界ダウン症の日によせて」	６２人
	合　計:１６１人	

（８）全国防災キャラバン「わが町のインクルーシブ防災」

どこで起きてもおかしくない地震、津波、台風、集中豪雨などの自然災害。そのたびに失われる高齢者や障害者、子どもたちなどの「災害弱者」の命。フォーラムやワークショップなどを通じて、誰の命も救う・誰も取り残さないという「インクルーシブ防災」という考えを普及・啓発するイベントを、東日本大震災被災地と高知県、愛媛県の３ケ所で実施した。

１１月２５日　岩手県　大槌町立大槌学園
「台風・大雨の災害が起きた時、あなたはどう行動するか」というテーマを、ゲーム形式でどう行動するかを考えた。

参加者
１４人

１１月２９日　高知県　土佐清水市立幡陽小学校
１１月３０日　愛媛県　愛南町立一本松小学校、一本松中学校
インクルーシブ防災の観点から、災害時にどう行動するかを「防災小説」として作成して発表し、それをもとにパネルディスカッションや避難所運営訓練などを実施。

参加者
１８３人

合　計:１９７人

（９）障害者スポーツイベント

○パラリンピアンがやってきた！子どもたちとの交流教室

２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、パラリンピック選手が小学校を訪問し、子どもたちと障害者スポーツを楽しみ交流する「パラリンピアンがやってきた」を７回実施した。５年目となる３０年度は、関東以外に富山市、仙台市で実施した。

			参加者
５月１１日	富山県立富山視覚総合支援学校	「ブラインドサッカー」	７０人
５月１８日	宮城県仙台市立秋保小学校	「ボッチャ」	４９人
６月　８日	栃木県大田原市立佐良土小学校	「ブラインドサッカー」	６０人
６月２７日	神奈川県小田原市立三の丸小学校	「水泳」	１６９人
１１月　８日	埼玉県さいたま市立大宮東小学校	「陸上競技」	２４０人
１１月３０日	東京都品川区立鮫浜小学校	「シッティングバレー」	５７人
１２月　７日	千葉県松戸市立中部小学校	「ゴールボール」	１５５人

合　計：８００人

○ＮＨＫ地域放送局と連携したパラスポーツ体験会

パラリンピック競技の体験会を最寄りのＮＨＫ地域放送局と共催で実施し、パラスポーツの魅力と楽しさを伝えた。

		参加者
１０月１３、１４日	ＮＨＫ福岡放送局	２２０人
１１月２６日	藤枝市立高洲小学校	７７３人

合　計：９９３人

○パラスポーツ競技大会に事業団賞を贈呈

２０２０年のパラリンピック東京大会に向けて、認知度向上と若手選手の育成に貢献するというねらいで、渋谷区が主催するパラバドミントンと車いすラグビーの大会に事業団賞の贈呈などの協力をした。

６月２４日　渋谷区長杯　第２回渋谷区パラバドミントン大会
（渋谷区スポーツセンター）

大会の中学生ボランティアによる投票で、宮城県～参加した中学１年生の鈴木麗美那選手に事業団賞を贈呈した。

１０月２０日　渋谷区長杯　第２回渋谷区車いすラグビー大会
（青山学院大学記念館）

事業団からは、大会で活躍した若手選手の小川仁士選手（東京のチームＢＬＩＴＺ所属）に池崎大輔賞を贈呈した。
また、会場が２階にあるため、車いすの選手の入退場をしやすくするための昇降機とスロープの仮設設置にも協力した。

○第５２回スポーツの集い

知的障害のある人のスポーツ競技会。重度の障害者が参加できる全国でも数少ないスポーツ大会で、東京都障害者スポーツ協会と協力して開催した。参加者は、１００ｍ競争、大玉ころがし、綱引き、リレーなどを行った。

			参加者
９月　５日	東京・調布市	武蔵野の森　総合スポーツプラザ	２，０００人

（１０）障害者や福祉への理解を促す事業

○福祉施設の手づくり製品や菓子の販売会

事業団とＮＨＫ共済会が平成２３年度より共同で実施している「福祉施設で作られたお菓子などの販売会」を、東京のＮＨＫ放送センターで６回開催した。
１２月の障害者週間に実施した回は、「手づくりの心届けます市」と称して渋谷区内９団体の製品を展示販売。３月は、東日本大震災被災地支援として福島県内の事業所が作った製品の販売を行った。

○福祉の仕事に就く若い人たちに向けたフォーラム

名古屋で、愛知県社会福祉協議会、ＮＨＫ名古屋放送局、中日新聞社との共催で、福祉を担う若手や中堅職員が本音で語り合える場を設け、福祉現場の現状と魅力を伝えるフォーラムを開催した。

		参加者
９月２３日	名古屋市　「福祉の星フォーラム」	２２５人

（１１）第５３回ＮＨＫ障害福祉賞

障害のある人の体験記録や、福祉関係者、家族などの実践記録を広く社会に伝える「障害福祉賞」には４１２編の応募があった。選考の結果、次の実践記録が入選した。

第１部門：　障害のある本人の部門
第２部門：　障害のある人とともに歩んでいる人の部門
応 募 数　４１２編（第１部門：３０５編、第２部門：１０７編）

（入 選 作）

最 優 秀	「もしも願いが叶うなら ～かあちゃんとうちゃんの、おもしろ子育て奮闘記」	山口　歩（奈良県）
優秀（第１部門）	「今の私のままで」	竹口　和香（東京都）
	「今日の誘導者」	菱沼　亮（神奈川県）
（第２部門）	「―高次脳機能障害―五年間をふり返って」	近藤　まさ江（愛知県）
	「過去の出来事から得たもの」	高橋　和明（岩手県）
矢 野 賞	「障害者になって思うこと」	山成　由起（兵庫県）
佳　　作	５　編	

入選作品は「第５３回障害福祉賞入選作品集」として広く頒布したほか、朗読による音声版（テープ、デジタル録音）、点字版の入選集を作成し、全国の点字図書館や視覚障害の応募者などに提供した。贈呈式は１２月５日にＮＨＫ放送センターで行った。また入選作品や受賞者の思いを、１２月１８日、１９日の「ハートネットＴＶ」（Ｅテレ）や、１２月１１日「ラジオ深夜便」（ラジオ第１）などで紹介した。

（１２）ＮＨＫハート展

○第２３回ハート展

２３回目の「ＮＨＫハート展」には、障害のある人が綴った詩４，０８４編が寄せられ、その中から選ばれた５０編の詩と、その詩をもとに、各界の著名人が制作したアート作品を組み合わせて展示した。

それぞれの想いがこもった５０対の作品は、平成３０年４月２６日から５月５日まで東急百貨店本店で開かれた東京展をはじめ、３０年度中に、札幌市、広島市、八戸市、名古屋市など全国１３か所の巡回展で紹介した。

入場者は３万９，８２３人。放送では作品の紹介や作詩者、作画者のインタビューを、Ｅテレの「ハートネットＴＶ」などで取り上げた。

○巡回展　会場・入場者数　（１３会場）

	会　　期	会　　場	入場者数
東京展	２０１８年 ４月２６日(木) ～ ５月　５日(土・祝)	東急百貨店本店	２，７３２人
札幌展	５月２９日(火) ～ ６月１０日(日)	さっぽろ地下街 オーロラプラザ	８，３７８人
秋田展	８月２４日（金）～９月　５日（水）	ＮＨＫ秋田放送局	３，８９１人
静岡展	９月１５日(土) ～ ９月３０日(日)	静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ	２，４９９人
東根展	１０月　６日(土)～１０月２１日(日)	東根市公益文化施設 まなびあテラス（山形県）	１，１２５人
徳島展	１１月　２日(金) ～ １１月１１日(日)	ＮＨＫ徳島放送局	２７８人
広島展	１１月２３日(金・祝) ～ １２月５日(火)	ＮＨＫ広島放送局	２，９６８人
神戸展	１２月　７日(金) ～ １２月１４日(金)	ＮＨＫ神戸放送局	４７３人
仙台展	１２月１８日（火）～１２月２７日（木）	ＮＨＫ仙台放送局	１，０２０人
新宿展	２０１９年 １月　２日(水) ～ １月　８日（火）	新宿高島屋	１，２９３人
八戸展	１月１１日(金) ～ １月１７日(木)	八戸ポータルミュージアム「はっち」	５，０５７人
名古屋展	２月　１日（金）～２月１３日（水）	セントラルパーク セントラルギャラリー	８，５９１人
宮崎展	２月２３日（土）～３月１７日（日）	みやざきアートセンター	１，５１８人

合計　３９，８２３人（１会場平均　３，０６３人）

２．高 齢 者 福 祉 事 業

（１）ＮＨＫハートフォーラム「めざせ！ いきいき長寿」

地域社会の中で共にすこやかに生きる知恵を伝える番組「ハートネットＴＶ めざせ！いきいき長寿」の公開収録（Ｅテレで放送）と、ゲスト山田邦子さんによる高齢者の健康や生き方に役立つ講演を行うイベントを全国４か所で開催した。

		参加者
５月２６日	千葉県野田市	５８９人
８月１８日	北海道陸別町	１６０人
９月２９日	徳島県石井町	３７７人
１２月２２日	福井県若狭町	２８５人

合　計：１，４１１人

（２）認知症のフォーラム

事業団が、ＮＨＫや各種団体と協力して多様な認知症のフォーラムを全国７会場で開催し、認知症の当事者やその家族、医療、介護従事者など２，３７３人が参加した。

○ＮＨＫハートフォーラム（認知症）

医療・介護の最新情報や望ましいあり方、地域での支援体制の課題について話し合った。

「ユマニチュードから考える“認知症にやさしいまち”」では、認知症ケア ユマニチュードの考案者イヴ・ジネストさんから、家族でもできるユマニチュードの技術を話してもらい、それをもとにどうしたら認知症にやさしいまちを実現できるかを考えた。

「認知症７００万人時代　～本人の声を聴き、当事者と創る新時代～」では、地元の当事者や支援者を交え、当事者が暮らしやすい地域を創るにあたってそのニーズをどのように捉え、どのように実践したらいいのかを考えた。

		参加者
６月　２日	福岡市「ユマニチュードから考える“認知症にやさしいまち”」	３６１人
７月　６日	石川県金沢市　「認知症７００万人時代　～本人の声を聴き、当事者と創る新時代～」	２９０人
７月２８日	宮崎市　「認知症７００万人時代を健やかに生きる～」	１１２人
（平成３１年）１月１２日	三重県津市　「認知症になりたくない！～予防対策を教えます～」	３８１人

合　計：１，１４４人

○フォーラム「超高齢社会を生きる　～認知症の人の思いから始めるまちづくり～」

地域における公益的な取組として、認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには何が必要なのか？そのための情報やサポートについて、当事者、医療関係者、地域の福祉担当者らとともに話し合い啓発につとめた。

		参加者
７月２８日	名古屋市	４４５人
（平成３１年）		
３月　３日	熊本市	３８４人
		合　計：８２９人

＊ＮＨＫの放送

９月３０日　Ｅテレ　愛知・岐阜・三重県域（７/２８実施）

（平成３１年）

４月１９、２６日　総合　熊本県域（３/３実施）

○フォーラム認知症新時代　「いきいきと暮らすために」

医療・介護の最新情報と、認知症の人と家族を支援する地域の先進的な取り組みを紹介して当事者、家族、医師、地域の人々が語り合い、地域支援の輪が広がるように努めた。

		参加者
１０月　６日	東京都港区	４００人

＊ＮＨＫの放送

１０月２０日　Ｅテレ　全国「ＴＶシンポジウム」

○認知症に関するパンフレットの配布

冊子「もの忘れが気になるあなたへ」（１９年度作成・２３万部刷成）と、冊子「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術」（２０年度作成・１６万部刷成）、あわせて６，０００部をフォーラムの参加者や希望者に配布した。

（３）認知症にやさしいまち大賞

「認知症７００万人時代」を目前に控え、認知症になっても安心していきいきと暮らしていくために不可欠な当事者の声に依拠した多様な取り組みの喚起をねらいに、全国から認知症にやさしい取り組みを募集し、それを専門家、有識者によって選考し表彰した。

応募は４５件。その中から本賞・特別賞併せて７件を表彰した。

表彰式を一般参加者を集めて開催するとともに、受賞した取り組みなどを番組でも紹介した。

＜受賞団体＞

本賞	○アクション農園倶楽部	（新潟県湯沢町）
	○ＨＡＴＡＲＡＫＵ認知症ネットワーク町田	（東京都町田市）
	○若年性認知症の人と家族と寄り添いつむぐ会	（石川県金沢市）
	○Ｄシリーズ/富士宮市ソフトボール大会実行委員会	（静岡県富士宮市）

○育育広場～南かざし団地チーム志度谷　　（香川県綾川町）
特別賞　○オレンジプロジェクト～お年寄りにやさしい街六角橋（神奈川県横浜市）
○国府の浜サーフィンプロジェクト、志摩市（大阪府堺市、三重県志摩市）

			参加者
１２月１１日	東京・千代田区	表彰式	１００人

＊ＮＨＫの放送
１１月１３日　「ハートネットＴＶ」で受賞団体を紹介

（４）ＮＨＫ銀の雫文芸賞２０１８

高齢社会をどう生きるかをテーマにした小説を一般から募集した。「雫石とみ文芸賞基金」によって２０年間実施してきた「銀の雫文芸賞」の成果を継承し、ＮＨＫの共催を得て、平成２０年度から「ＮＨＫ銀の雫文芸賞」として行っている。
作品の審査には、作家の出久根達郎さん、マンガ家の里中満智子さん、脚本家の竹山洋さん、ＮＨＫドラマ番組部長、文化福祉番組部長があたった。６５５編の応募があり以下の３編が入選した。
入選作品は、「ＮＨＫ銀の雫文芸賞2018作品集」として製本し、広く頒布した。

最優秀	『最後の最期の一人になるために』	浅川　徳義（神奈川県）
優　秀	『コタツムリ』	小沼　明日香（東京都）
	『笠井さんの家』	宮川　泉（千葉県）

最優秀の浅川徳義さんの作品『最後の最期の一人になるために』はラジオドラマ化し、１０月２７日の「ＦＭシアター」で放送した。

（５）ＮＨＫ介護百人一首

日々の介護の様子や思いなどを詠んだ短歌を募集して珠玉の作品を選び、「介護百人一首2019」として作品集にまとめました。１３回目になる３０年度は、６歳から１０２歳までの幅広い年齢層から９，９１７首の応募があった。
入選作品は、Ｅテレ「ハートネットＴＶ」で、年間を通じて定期的に紹介されるほか、パネルにして３１年度に各地の放送局などで展示する。

３．東日本大震災などの被災地を支援する事業

（１）西日本豪雨、北海道地震の被災地に支援金

３０年度は、西日本豪雨や北海道地震など災害が相次いだため、事業団が災害救護事業のために積み立てていた１０００万円で下記の被災地（施設）を支援した。

・ＮＰＯ法人　岡山マインド『こころ』（岡山県真備町）　　２００万円
　＊平成２３年に「わかば基金」の支援金部門で支援金を贈呈した施設
・岡山県　　共同募金会を通して２００万円
・広島県　　〃　　２００万円
・愛媛県　　〃　　２００万円
・北海道　　〃　　２００万円

（２）北海道地震の被災地支援のためにチャリティー・ジャズ・ライブ実施

ＮＨＫ神戸放送局に地元のジャズ・ミュージシャンや高校生バンドが集まり、北海道地震の被災地を支援するためのチャリティー・コンサートを実施した。
募金額は６９，１３７円。

（平成３１年）		入場者
１月１４日	ＮＨＫ神戸放送局・トアステーション	３０２人

（３）「ＮＨＫ公開復興サポート 明日へ in 大槌町」で防災イベント

福島県南相馬市で障害者施設を運営する講師にインクルーシブ防災について講演してもらい、その後、「災害時にどう行動するか」をテーマにイベント参加者と共にゲーム形式のワークショップを実施した。　⇒１.（８）参照

（４）“明日へ”のテーマ曲「花は咲く」の著作権料による義援金など

３０年度もＮＨＫ東日本大震災プロジェクトの復興支援ソング「花は咲く」の楽曲著作権料１，９７５万円を義援金として被災地へおくった。

また、東日本大震災で被災した福島県内の福祉作業所が作った菓子や名産品の販売会を３月４日に東京の放送センターで行った。

４．福 祉 情 報 の 提 供 事 業

（１）福祉ライブラリー活動

「福祉ライブラリー」はＮＨＫの福祉番組を複製して貸し出すもので、事業団創立以来の基幹事業の一つである。ラインナップも多様で教育や福祉の現場で活用されている。

○福祉ビデオライブラリー

３０年度に新しくライブラリー化した番組は２８。「ハートネットＴＶ」などテレビの福祉番組や、「ＮＨＫスペシャル」など視聴者から反響の大きかった番組、福祉の学習に役立つ番組をＤＶＤに複製した。 また、事業団が制作した福祉ＤＶＤ教材もライブラリーに加えた。

年間の貸出利用は５，１１３本。おもな利用者は、福祉関係の大学・専門学校や、福祉の現場で働く人、障害児の親や障害者本人、介護に携わっている家族、ボランティア団体などである。

利用した人が特に多かったソフトは、事業団制作の福祉ＤＶＤである「優しい認知症ケアユマニチュード」（１，２８１本）。つづいて「ひきこもりからの回復」（１８３本）。「認知症ケア」（９７本）、「発達障害の子どもたち～“自立”をめざして」（７４本）、「大人の自閉症スペクトラム」（７３本）で、いずれも事業団制作のＤＶＤだった。

３０年度　複製番組数	ライブラリー保有番組数	年間利用数
２８番組	５６８番組	５，１１３本(枚)

◎これまでの利用数累計：１９万７，９５６本

○聴覚障害者向け字幕ビデオライブラリー

ＮＨＫの字幕放送の拡充にあわせ、聴覚障害者向けサービスとして平成１５年度から行っている。３０年度は、ハートネットＴＶの「 罪を犯した発達障害者の“再出発”」、「相模原障害者施設殺傷事件」、ＥＴＶ特集「亜由未が教えてくれたこと」など５本を字幕化した。

ライブラリーは通算１００番組で、全国５９の聴覚障害者関係施設と当事業団で貸し出しを行っている。

○視覚障害者のための音声ライブラリー

文芸作品や古典の名作を朗読したＮＨＫの番組をデジタル録音のＤＡＩＳＹに複製して、全国４７か所の委託施設で貸し出しを行っている。

３０年度はＮＨＫの『ラジオ文芸館』から「甚三郎始末記」（あさの あつこ）、「モウレン草」（熊谷　達也）など４作品を、『ＦＭシアター』から「さくら、ねこ、でんしゃ」、「家族のコツ」など３作品、『新日曜名作座』から「ふるさと銀河線 軌道春秋」を複製した。

貸し出し利用は年間４，２００本あまりで、「ラジオ文芸館」の利用が多かった。

３０年度　複 製 作品数	年　間　利　用　本　数
４番組　９作品	４，２０６本(枚)

◎これまでの利用数累計：　１９８万６，２７６本

（２）福祉ＤＶＤ教材「新しい絆の作り方　特別養子縁組・里親入門」の制作

虐待や死別などで親と暮らせない子どもは４万５千人。それに呼応し２０１６年に児童福祉法を改正し、『家庭養育優先』の理念が打ち出された。
そこで「里親」「特別養子縁組」に関心がある人に向けて制度をわかりやすく紹介するとともに、当事者の声、家族が直面しがちな課題や対応法について解説するＤＶＤ教材を制作した。

福祉ＤＶＤ教材（テキストつき）は２枚組で７００セット制作し、全国の児童相談所、地域の中核となる産婦人科病院、保健所、子育て支援センター、里親会などに配布し、貸し出しを委託し、併せて福祉ビデオライブラリーからも貸し出しを行う。

（各巻の内容）
第１巻　「特別養子縁組で”家族“になる」
第２巻　「里親家庭で“絆”を育む」
監修：上鹿渡　和弘（早稲田大学　教授）、萬屋　育子（ＮＰＯ法人キャプナ　理事長）

なお、本事業はＪＫＡの補助金を得て実施した。

（３）「認知症」「思春期のこころの病」「がん患者のための体と心の緩和ケア」の冊子を希望者へ配布

○「もの忘れが気になるあなたへ」
（監修：小阪憲司　横浜市立大学名誉教授）
認知症はどんな病気か、治療法や予防法、相談窓口などを分かりやすくまとめたもので、発行数は２３万部となった。

○「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術～」
（監修：須貝佑一　認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）
認知症の介護のポイントを症状別に解説したもので、発行数は１６万部。
３０年度は、認知症の両冊子あわせて６，０００部をフォーラムの参加者や希望者に無料で配布した。送料は利用者負担。

○「思春期のこころの病～“悩み”と“病”の見分け方～」

（監修：青木省三　川崎医科大学精神科学教室教授）

思春期特有の精神疾患の見分け方と対応について啓発する冊子で１１万部作成。

２７年度に在庫がなくなったが、ホームページで見られるようにし、個人のほか、学校や勉強会をするＮＰＯなどにも利用してもらっている。

○「がん患者のための体と心の緩和ケア

～痛みと悩みをやわらげて自分らしい療養生活を送るために～」

（監修：的場元弘　青森県立中央病院 緩和医療科 部長）

がん患者の体の痛みや心の苦しみを和らげる「緩和ケア」について、病院や相談機関の情報を含めて解説したもので４万部を作成。３０年度は希望者に３０部を配布した。

５．チャリティー事業

年間を通して数々のチャリティーを行った。３０年度のチャリティーイベントは以下の通り。
「※」印は物品などの贈呈をした催しで、詳細は６.（４）に記載

（１）ＮＨＫ番組公開チャリティー

催物名	期　日	会　場	売上高　等 （単位：千円）
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜東京公演＞ （16回　8日×２回）	5月3日～6日 11月1日～4日	ＮＨＫホール	（寄付額） ６，９１０
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜地方公演＞　（28回）	7月14日 ～ 31年3月9日	栃木県那須塩原市 ほか 全国１１か所	（概算寄付額） ２，８７３ ＜31年度入金予定＞
いないいないばあっ！ ワンワンわんだーらんど （26回）	4月8日 ～ 31年3月24日	千葉県松戸市 ほか 全国１０か所	（概算寄付額） ２，５６２ ＜31年度入金予定＞

（２）事業団企画チャリティー

催し物名	期日	会場	売上高　等 （単位：千円）
第51回日本陶芸倶楽部会員 チャリティー作品発表展	5月24日 ～6月4日	銀座松屋	（寄付額） １，３４８
ＮＨＫ厚生文化チャリティー展　（2回）	11月7日～13日 12月12日～17日	名古屋 三越栄店 金沢 めいてつｴﾑｻﾞ	（売上高） ８，０７３
障害者のための女流義太夫 チャリティー演奏会	12月15日	紀尾井小ホール	（寄付額） １３０
Ｎ響「第９」チャリティー コンサート	12月26日	ＮＨＫホール	（売上高） ２３，８０３
第52回ＮＨＫ福祉大相撲 ※	31年2月 9日	両国　国技館	（売上高） ２３，０００

６．そ の 他 の 支 援 事 業

（１）第３０回 地域福祉を支援する「わかば基金」

あすの福祉の芽を育てる「わかば基金」は、福祉の分野で地道に活動を続けているグループを支援するために設けられたもので、今回で３０回目を迎えた。
２４年度に設けた**「東日本大震災復興支援部門」は、「災害復興支援部門」に変え、全国の激甚災害の被災地から申請を募り**、２２のグループから申請があった。
また、**「支援金部門」**には２０６グループ、**「リサイクルパソコン部門」**には９２グループから申し込みがあった。
「リサイクルパソコン部門」は、ＮＨＫやＮＨＫ関連団体から不用になったパソコンを寄贈してもらい、新しいアプリケーションソフトを入れた上で必要としている福祉団体に贈呈するもので、ＮＨＫグループの社会貢献活動となっている。

選考委員会を経て、全国１９グループに総額１，１０５万円の支援金、１９グループに４５台のパソコンを贈った。また、「災害復興支援部門」では熊本地震の被災施設に１００万円の支援金を贈ることができた。支援総額は、パソコン費用を含め１，３６５万円。
なお、初回からの贈呈件数は７４８に上る。

＜支援金部門 支援先＞＊１９グループ　＊支援金総額：１，１０５万円

北海道帯広市	NPO法人みんなのポラリス	ボッチャセット	５０万円
札幌市	生活介護事業所くれーる	タブレットＰＣ	１２万円
青森県つがる市	NPO法人つがるしあわせ工房	オーブンレンジ　他	３２万円
宮城県名取市	みやぎ化学物質過敏症の会～ぴゅあい～	対策テント　他	８３万円
千葉県鴨川市	NPO法人ふれあいサポートさくら	システムバス	７７万円
東京都多磨市	NPO法人シェア・マインド	大型冷蔵庫　他	３８万円
横浜市	NPO法人農スクール	ビニールハウス　他	１００万円
新潟市	新潟市精神障害者自助グループ	「ココカラ」漫画製本代	３３万円
長野県松本市	NPO法人ＮＰＯホットライン信州	収納倉庫	７０万円
金沢市	NPO法人トオの家	サンルーム	５０万円
滋賀県彦根市	NPO法人道	視線入力装置　他	９５万円
京都市	NPO法人アプリ	ミュージックベル	３０万円
京都府木津川市	おはなしたまご	手袋人形　他	７万円
大阪府和泉市	NPO法人音楽サポートネット音結	ジョイントマット	１０万円
奈良県橿原市	奈良県音訳グループ草笛会	ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ図書制作ソフト	５０万円

熊本市	くまもと発達支援親の会「めだか」	大型積み木　他	８３万円
熊本市	在宅支援研究所　てとてとココロ	視線入力装置　他	８９万円
宮崎県美郷町	渡川いこいの郷加工グループ	オーブン	９９万円
沖縄県沖縄市	NPO法人重症心身　児童発達支援Ｔｏｉ Ｔｏｉ	入浴用ｽﾄﾚｯﾁｬｰ他	９７万円

＜リサイクルパソコン部門 支援先＞＊１９グループ　＊リサイクルパソコン贈呈：４５台

群馬県太田市	太田道草の会	３台
埼玉県さいたま市	点訳グループうらわ	３台
千葉市	グループ・ブライユ	２台
千葉県習志野市	習志野市愛朗会	１台
千葉県浦安市	浦安拡大写本るーペ	１台
東京都府中市	NPO法人ＦＬＡＧＳ	１台
横浜市	NPO法人フードバンク横浜	３台
横浜市	ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in横浜	３台
新潟市	要約筆記学習サークル　ゆうあい	１台
静岡県浜松市	NPO法人えんしゅう生活支援net	３台
富山県小谷部市	ニューカナリヤサークル	３台
滋賀県大津市	パソボラ大津・かいつぶり	３台
大阪市	NPO法人あそーと	２台
奈良県広陵町	NPO法人つくし野会	２台
兵庫県洲本市	樫の木グループ	３台
兵庫県洲本市	朗読ボランティア グループ潮騒	３台
兵庫県たつの市	NPO法人播磨オレンジパートナー	２台
長崎市	長崎市要約筆記会なごみ	３台
宮崎市	プチ・コパン	３台

＜災害復興支援部門 支援先＞＊１グループ　＊支援金総額：１００万円

熊本県益城町	NPO法人奏気流	キャンピングカーの修理	１００万円

３０回を記念して、過去２９回で支援したグループに、支援金の活用法やその後の活動状況、利用者へのサービスで工夫していることなどをヒアリングし、福祉活動をするグループのヒントになる情報をホームページで提供した。

（２）ＮＨＫ歳末たすけあい・ＮＨＫ海外たすけあい

「平成３０年度ＮＨＫ歳末たすけあい・ＮＨＫ海外たすけあい」を、ＮＨＫ、中央共同募金会、日本赤十字社と共催で１２月１日～２５日の間実施した。

「歳末たすけあい」の義援金は、中央共同募金会を通じて被災した福祉施設への支援、障害のある人や、援助や介護を必要とするひとり暮らしのお年寄り、援助を必要とする子どもたち、長期療養生活をしている人や生活が困難な世帯などに配分される。

「海外たすけあい」では、日本赤十字社が赤十字国際機関と協力し、紛争や自然災害に苦しむ人たちのために使われる。

受付件数・金額（全国集計）

	ＮＨＫ歳末たすけあい		ＮＨＫ海外たすけあい	
平成30年度	4万1,593件	5億6,096万671円	7万6,860件	6億3,609万5,488円

（３）「災害たすけあい」受け付けの実施

事業団ではＮＨＫ、日本赤十字社、共同募金会とともに、大規模な災害が起こった際に、その都度「災害たすけあい」を実施している。３０年度は、国内３件と海外２件の災害について実施した。

	期　間	日数	金　額
米原市竜巻災害救援金	2018年7月6日～9月28日	85日	2,709万1,985円
平成３０年７月豪雨岡山県災害義援金	2018年7月10日～2019年6月28日	354日	139億4,431万6,648円 ＊2019年4月4日現在
平成３０年７月広島県豪雨災害義援金	2018年7月12日～2019年6月28日	352日	98億9,847万6,763円 ＊2019年4月2日現在
山口県平成３０年７月豪雨災害義援金	2018年7月20日～12月28日	162日	1億2,913万6,048円
平成３０年７月豪雨災害義援金（京都）	2018年7月11日～12月31日	174日	9,588万7,489円
平成３０年北海道胆振東部地震災害義援金	2018年9月11日～2019年3月31日	202日	52億8,947万5,948円 ＊2019年4月8日現在

２０１８年インドネシア・ スラウェシ島地震救援金	2018年10月11日～ 11月30日	52日	1億3,329万297円
２０１９年モザンビーク サイクロン救援金	2019年3月31日～ 6月30日	98日	207万2,960円 ＊2019年4月3日現在

（４）物品などの寄贈

○ＮＨＫ福祉大相撲による「福祉相撲号」の寄贈

３１年２月９日に開催した「第５２回ＮＨＫ福祉大相撲」（入場者４，１０３人）の純益により福祉車両「福祉相撲号」５台を購入し、これに協力団体からの寄贈１台と合わせて合計６台を障害のある人たちの療育活動や、お年寄りのデイケアなどの活動を行っている施設・団体に寄贈した。

「ＮＨＫ福祉大相撲」の模様は、２月１７日　総合テレビで放送した。

＜贈呈先＞

社会福祉法人	大槌町社会福祉協議会 デイサービスセンターはまぎく	（岩手県大槌町）
社会福祉法人	みずき福祉会	（東京都八王子市）
社会福祉法人	清和会	（新潟県上越市）
社会福祉法人	蒼樹会　特別養護老人ホーム さつき園 地域交流センター	（静岡県長泉町）
社会福祉法人	遊歩　吾亦紅	（鳥取県米子市）
社会福祉法人	長興会 長光園障害者支援センター	（佐賀市）

（５）催物への招待

事業団の催し物の開催時に、視覚障害の人や知的障害のある人など５２６人を招待した。

			招待者
１２月２６日	Ｎ響「第９」チャリティーコンサート	ＮＨＫホール	１６２人
（平成３１年） ２月　９日	ＮＨＫ福祉大相撲	両国　国技館	３６４人
		合　計：	５２６人

７．広 報 活 動

事業団の活動を周知するために事業内容を紹介した印刷物をイベント会場で配布し、福祉活動への理解と協力を求めた。またホームページやフェイスブックでは、催し物の周知や活動報告などを分かりやすく伝え、ネット時代にふさわしい広報活動に努めた。

（１）広報物の作成・配布

○ＮＨＫ厚生文化事業団年報「支えあい　共に生きていくために」を発行して、事業団の福祉活動への理解促進を図った。

○事業団の業務を紹介したパンフレット「あなたのやさしさ届けます」を作成して、イベント会場などで配布した。また会場では、イベントのテーマにそった冊子や、事業団作成の福祉ＤＶＤ教材や福祉ビデオライブラリーの利用案内などのチラシも配布した。

○ＮＨＫの番組やニュースと事業団の催しの連動に力を入れた。また、外部メディアへの情報提供を積極的に行った。

（２）広報活動の強化にホームページの拡充

○事業団の活動をより多くの人に知ってもらい、活用してもらうため、「最近の活動内容」や、「募集事業の案内」、「福祉ビデオライブラリーの新着情報」などをきめ細かく提供するとともに、ビジュアルでわかりやすい画面構成に努めた。

掲載している主な内容は、
・事業団の「催し物の予定」や「実施事業の報告」
・事業団が制作した冊子の内容。「認知症」や「がん緩和ケア」など
・「ＮＨＫ障害福祉賞」や「ＮＨＫ銀の雫文芸賞」の入選作品の紹介
・「わかば基金」で支援した福祉団体の活動をリポートする「わかばなかま」
・「福祉ビデオライブラリー」の目録や予約システム
・寄付について　　・・・・など

○ホームページの利用者からメールで寄せられたさまざまな問い合わせには、各担当者が即応するよう努めた。

８． 働き方改革とガバナンスの強化等

（１） 働き方改革

ＮＨＫグループの「働き方改革宣言」に沿って、事業団でも「働き方改革」を最重要課題として取り組んだ。毎月定期的に「働き方総点検」を実施して適正勤務に努めるとともに、勤労休暇７日間の取得を必須とし、全員が達成した。また、新たな休暇制度の導入を決めるなど、体制と制度の整備を一層進めた。

（２） 改正社会福祉法への対応

同法の趣旨に沿って、①経営組織のガバナンスの強化 ②業務運営の透明性の向上　③財務規律の強化に取り組んだ。評議員会の設置、計算書類・現況報告書・役員報酬等の支給基準の公表、内部留保の明確化などに努め、３０年７月の厚生労働省による監査で、法改正の趣旨を理解し、適正に業務が遂行できているとの評価を得た。

（３） ガバナンス体制の強化

内部監査を外部の専門団体に委託して行った。これにより、外部監査法人監査、監事監査とあわせて、いわゆる「三様監査」の体制を整えた。また、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティ等の重点リスクについて、外部の専門団体との間で顧問契約を結ぶなど関係を強化し、適正な業務遂行に努めた。

（４） 業務の適正を確保するための体制の評価

内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「IT への対応」という６つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応(内部統制)が実施されていることを評価した。評価の結果、平成３１年３月３１日時点における事業団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

（５） 各種研修の実施

ＮＨＫ放送研修センターの「事例に学ぶコンプライアンス研修」への参加や、外部講師を招いて事業団独自で開催した「情報セキュリティ研修」の受講などを通して、全役職員でリスクマネジメントの強化に努めた。

９．後援・協賛した事業

福祉、教育、医療団体などが実施する研修、啓発事業、また美術、スポーツ団体などが福祉目的で開催するチャリティー事業に積極的に協力し、本部・支局合わせて１６８件の事業を後援、協賛した。

○福祉関連の催し（１３９件）

「自閉症啓発デー２０１８」「第46回日本車いすバスケットボール選手権大会」
「高校生ボランティア・アワード」「福祉の就職総合フェアSPRING in OSAKA」
「第５８回愛知県身体障害者福祉大会」
などを後援、協賛した。

○チャリティー催し物（２９件）

「国展」「春陽展」「東光展」「二科展」「三多摩総合舞踊発表会」「チアリーディング日本選手権大会」「KEIRINグランプリ２０１８」「手工芸作品展」「手づくりフェア in 九州」などのチャリティー催しを後援し、その益金から事業団へ寄付をいただいた。

１０．寄 付 金

当事業団への寄付金には二種類ある。個人や団体からのご寄付である一般寄付金と、当団が主催、後援、協賛したチャリティー事業からのご寄付であるチャリティー寄付金である。

３０年度は、

一般寄付金が	２１７件	５，８６９万２，３１０円
チャリティー寄付金が	４９件	５，１１３万６，９７５円
寄付金総額は、	２６６件	１億　９８２万９，２８５円

に上った。

11. 賛 助 会 員 ・ 維 持 会 員 等

賛助会員は一般法人に広く協力を求め、本年度は２団体６口の新規入会があった。しかし業績不振等により、退会７団体８口の申し出もあり、合わせて１２５団体から１，９６０万円の支援を受けた。
個人からの継続寄付者を含む維持会員等については、ＮＨＫおよびＮＨＫ関連団体役職員、ＮＨＫ旧友会員など ５，９１８人の方々の協力を得て、その額は１，００５万４，４０９円に達した。

〔特別賛助会員〕

・第一生命保険　・日立製作所　・富士通
・みずほ銀行　・ＮＨＫエンタープライズ　・ＮＨＫメディアテクノロジー
・ノービスハイエストサービス

〔賛助会員〕

・愛知県農業協同組合中央会　・アットホーム　・アーチェリープロダクション
・アーティストハウスピラミッド　・葵設備工事　・アフラック
・池上通信機　・石川近鉄タクシー　・岩谷産業
・栄光舎　・エクサート松崎　・荏原冷熱システム
・遠藤波津子美容室　・岡谷鋼機　・オフィスプロペラ
・勝亦電機製作所　・加藤電気工業所　・川崎重工業
・川嶋印刷　・北日本モーター　・木下サーカス
・近物レックス　・近鉄タクシー　・ＫＤＤＩ
・江綿　・国際自動車　・コメリ
・近藤産興　・サンセイ　・シーズコーポレーション
・ジーズ・コーポレーション　・ジェイアール東海高島屋　・ＪＴＳ
・島精機製作所　・小学館　・白川プロ
・新日本空調大阪支店　・スタービーイング　・スマートコンセプト
・住友電気工業　・住江織物　・全国大陶器市振興組合
・全国陶器祭振興会　・セントラルスポーツ　・全日本空輸
・ゼンリン　・総合システム管理　・ダイキン工業
・大和自動車交通　・大和証券　・宝塚舞台
・タカラベルモント　・津幡技研工業　・ツマガリ
・ツムラ　・つむら工芸　・帝産キャブ名古屋
・帝都自動車交通　・電気興業　・東京海上日動火災保険
・東芝インフラシステムズ　・東新紙業　・トヨタ自動車
・豊田スタジアム　・名古屋三越　・西川
・日産自動車　・日産自動車販売　・日本医師会
・日本音楽事業者協会　・日本音楽著作権協会　・日本ガイシ
・日本交通　・日本ゴルフツアー機構　・日本たばこ産業
・日本電気　・ネイチャー　・野村證券

・バーニングプロダクション
・阪急産業
・日立国際電気
・ホテルオークラ東京
・ミス・パリ
・明電舎
・森平舞台機構
・ランドマークプロダクツ
・ＮＨＫアート
・ＮＨＫ営業サービス
・ＮＨＫ学園
・ＮＨＫ出版
・ＮＨＫプロモーション
・共栄サービス
・放送衛星システム
・花岡無線電機
・阪急電鉄
・日の丸自動車
・丸一鋼管
・三井住友信託銀行
・メディア２１
・ヨコシネディーアイエー
・リンレイ
・ＮＨＫアイテック
・ＮＨＫエデュケーショナル
・NHKグローバルメディアサービス
・ＮＨＫビジネスクリエイト
・ＮＨＫ文化センター
・日本国際放送
・バリュープランニング
・ＰＬ東京健康管理センター
・福建社
・丸徳産業
・三菱ＵＦＪ信託銀行
・モリタホールディングス
・吉本興業
・ＷＯＷＯＷ
・ＮＨＫインターナショナル
・NHKエンジニアリングシステム
・ＮＨＫサービスセンター
・ＮＨＫプラネット
・ＮＨＫ放送研修センター
・日本放送協会共済会

（Ｈ３１．３．３１現在）

１２．役員

（１）役員体制　（平成31年3月31日現在）

理事長	鈴木　賢一	
常務理事	石川　信	
理事（非常勤）	荒木　利幸	（ＮＨＫ制作局第2制作センター長）
理事（非常勤）	板野　裕爾	（株式会社ＮＨＫエンタープライズ代表取締役社長）
理事（非常勤）	上野　一彦	（東京学芸大学名誉教授）
理事（非常勤）	小山内　美江子	（シナリオライター）
理事（非常勤）	伍藤　忠春	（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会評議員）
理事（非常勤）	中村　吉夫	（社会福祉法人聴力障害者情報文化センター理事長）
理事（非常勤）	橋本　正明	（社会福祉法人至誠学舎立川理事長）
理事（非常勤）	福山　浩一郎	（ＮＨＫ視聴者総局事業センター長）
監事（非常勤）	渋谷　篤男	（社会福祉法人中央共同募金会常務理事）
監事（非常勤）	友田　孝兄	（ＮＨＫ営業サービス株式会社常務取締役）

（２）理事および監事に支払った報酬等の額

当該事業年度における当事業団の理事および監事に対する報酬等の内容は、以下のとおり。

対象者	人　数	報酬の額
理　事	１２人	３，１３０万円
監　事	４人	３万円

注）１．上記人数には、当期中に退任した常勤理事1名、非常勤理事１名、非常勤監事２名が含まれる。
２．理事及び監事のうち、ＮＨＫ及びＮＨＫ関連団体の役職員としての立場を有する者に対しては、報酬を支給していない。